

平成22年度病害虫発生予報第5号(8月予報)

今月のトピックス

ゴマダラカミキリ(かんきつ)

学名 : *Anoplophora malasiaca*



生態と被害

本種は日本全土に分布し、特にかんきつ類では重要な害虫の一つとして警戒されている。寄主範囲が幅広く、沖縄ではかんきつ類以外にグアバ・レイシ・センダンなど多岐にわたる。

成虫の体長は4cm程で、光沢のある黒色で背面に白斑を呈する。5～8月にかけて発生し、成虫は昼夜の区別無く活動するが、かんきつへの飛来は午前中が多いとされる。生木の樹皮を食べ、樹皮をかじって隙間を作り、主に地際部に産卵する。孵化した幼虫は生長しながら幹内部を食入するため、樹幹部に木屑や樹液が出るようになる。羽化して脱出するとき、株元付近に円形の脱出孔ができる。成虫・幼虫の食害により枝枯れや枝の折損、葉の黄化などが生じ、樹が小さいと一頭の寄生で枯死する場合がある。また、被害症状はカンキツグリーンング病と酷似している。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>